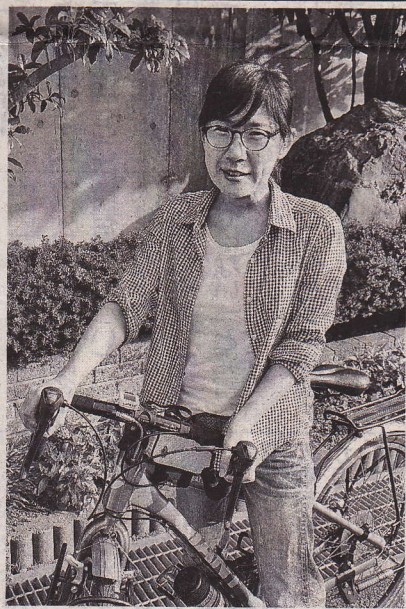


いまむら あやこ
今村 彩子さん



聴覚障害を乗り越え自転車で日本を縦断するドキュメンタリー映画を撮った



自分を映画の主役にしたのは初めて。耳が聞こえない中でどう他人と付き合うか、模索しながら自転車で日本を縦断した57日間を記録した。「コミュニケーションが苦手だったり、自分に自信が持てなかったりする人に、また頑張ろうと思ってもらえたら」と話す。生まれつき両耳が聞こえない

旅のきっかけは、読み書きを教え社会との懸け橋になってくれた母の死。ショックで死にたいときもあった。好きな自転車で旅し、心のどこかで避けてきた健康者に話しかけようと思うようになった」。今後は聴覚障害にとらわれず映画を撮るつもりだ。名古屋で父親と祖母、愛猫と暮らす。

tart Line」。

37歳。

ない。映画監督を志して米国の大学で製作方法を学び、ろつ者や難聴者をテーマにドキュメンタリーを撮ってきた。

「旅を通して気負わず健康者と難聴者を問わず自分と重ねて見てしまっただけの本質だったから。でも、スタートは何度でも切れると分かった」。試写会では「きなかった」というのが旅の本質だったから。でも、

同行者は、自転車店で働く友人の堀田哲生さん(41)。健聴者との会話に気後れる今村さんに「耳が聞こえないことに甘えてい」と叱咤し続けた。時にぶつかり涙を流したが、それでも懸命にペダルをこぎ続けた。

編集作業できれいにまとめないようにし、ふがいない自分の姿を残した。「『できなかつた』というのが旅の本質だったから。でも、